

一般財団法人自然公園財団 日光支部でのインターンシップ体験レポート

実習の内容

毎日交替で、公園班、シカ班、ビジターセンター班(VC班)に配属され、公園管理業務を行った。それぞれの業務は、
公園班：トイレ清掃、外来種の駆除、周辺園地・歩道等の美化管理
シカ班：シカ柵の管理(巡視、センサス)、土砂・枯木撤去
VC班：キャンプ場の管理、ビジターセンター内の運営管理(自然情報の収集、展示の管理)
その他、清掃登山、湯元内のイベント手伝いなども行った。

実習で学んだこと

全体で20人弱という少人数の職場だったことや、実習生それぞれの持ち場が交替制だったことから、所長や主任を含め、様々なスキルを持った人たちとのつきあい方や接し方を学ぶことができた。少人数のおかげで、それぞれの人が工夫していることを観察し、真似することができたと思う。毎日報告書を出す際、相手の状況やタイミングを窺うことが大切だとわかった。自然の中での仕事ということで、対人能力だけでなく、体力や精神力がなければ仕事をこなすことはできなかった。私は体力が乏しく、苦戦することが多かった。自然相手の仕事の辛さを体験できてよかったと思う。また、職場の隣に宿舎を借り、自炊をしながら生活した。限られた食材で食事をつくっていたが、途中で食糧が底をつき、職員の方に分けて頂く始末になってしまった。仕事で失った栄養を摂るのも大事だが、生活のこともしっかりと同時に考えていかなければいけないと反省した。ほかの職場では味わえない非日常での限られた生活を行うことができ、学ぶことが多く、非常に有意義な時間となった。



実習を終えて

大好きな「自然」の中での生活ということで、生活がきつくても、特に精神的に酷だということではなかったが、代わりに体力面で非常にきつい思いをした。足腰が弱く、枯木を切るための力が入らなくて、所長に喝を入れられたり、清掃登山で(気を抜くとすぐに息があがってしまうので)とにかく疲れないようにしたり、苦労のおかげで「私はこれではまずい」と思えるようになったことはいい思い出である。逆に、自然の恵みを感じた出来事にも立ち会えた。湯元内を流れる川でニジマスのつかみ取り大会があり、手伝いをした。魚や子どもたちと触れ合えて楽しかった。それに、私もニジマスをいただいた。ちょうど食糧が底を突いた時だったのでありがたく自然の恵みをいただいた。私の趣味は自然観察であるが、プロに、私に足りない手法を教授して頂くこともあった。記録の取り方や観察のポイントなど、重要なものばかりで勉強になった。国立公園内の、普段出会うことのできない動植物や、それを管理するためにどんな工夫がされているか、またそれらをただの観光の視点からでなく、発信し、伝える側からの視点から見ることによって、自然に関わる仕事の辛さや楽しさを経験することができたことは、これからの学生生活をより豊かにできると思う。

2014年8月

社会学部現代社会学科2年 川辺太郎